

令和2年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会  
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一 『海浜の静物』 1988年 キャンバス・油彩

「海浜の静物」

「本当に開催してもいいのだろうか・・・」と不安の残る幕開けとなった「大正浪漫の寵児 竹久夢二展」は無事に会期を終え閉幕。当初5月から開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため延期。先が見えない中、本当に開催できるのか、と大変苦慮しましたが、無事に会期を終えることができて本当に嬉しく思います。様々な感染症対策を講じながらの開催でしたが、こうした状況の中において多くのお客様にご来館いただけましたことに心から感謝いたしております。会期中に皆様からいただいたアンケートを見てみると、「来て良かった」の一言が、美術館で働く者として何よりも嬉しい言葉です。コロナ禍の開催ではありましたが、美術館でのひと時が少しでも皆様の心の安らぎにつながったのかなと「ほつ」としました。

現在は常設展「鷹山宇一の世界」を開催中です。展示室は大正浪漫の世界から鷹山宇一の幻想的な世界へガラリと変身！初期の版画から晩年までの作品を展示しています。

展示中の作品から「海浜の静物」をご紹介します。1988年、鷹山80歳の時の作品です。画面の手前には色とりどりの果実と花が配置され、5頭の蝶がその甘い匂いに誘われるように舞っている。奥には海が広がり空には虹がかかる。「ガラスのような肌」を追求した独自の透明感溢れるマチエールが神秘的な光を放ち、私たちを夢幻の世界へと誘います。深い闇を抜けた先に見つけたオアシスのようにも見えます。

常設展は1月31日まで開催。美術館で過ごす時間が心を癒すひとときになればと願っています。鷹山宇一の幻想世界を是非ご鑑賞ください。

学芸員 遠藤 未奈子



# 公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会理事

## 祝・野毅先生日本芸術院会員ご就任

令和2年12月15日付けで公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会理事の野毅先生(彫刻家・公益社団法人二科会常務理事)が、萩生田光一文部科学大臣より日本芸術院会員に任命されました。

野毅先生は、(公財)鷹山宇一記念美術振興会設立以来の理事として、七戸町立鷹山宇一記念美術館の運営にご尽力頂いております。野先生の作品として、美術館第1展示室入り口に鷹山宇一先生のレリーフ、スペイン民芸資料館にはブロンズ像の「請」が、また七戸町内の(社福)七戸福祉会にはブロンズ像の「懐」が設置されており、いつでも先生の彫刻に触れることができます。先生の今後益々のご活躍をご期待申し上げます。



「請」

スペイン民芸資料館ホールに設置  
館野先生のブロンズ彫刻作品

### お祝いの言葉

鷹山宇一記念美術館  
館長 鷹山ひばり

人間はこの世に生を享けた時、何かしらの使命を持って生まれてくると言う。吉野毅先生は彫刻家として大成した現在、後世に残る彫刻をつくること、使命だったかも知れないが、私にはこれを超えた使命感を果たされたと思っている。  
「剛毅木訥仁に近し」の言葉通り「野毅」は、固い意志を持ち、物事に屈せず、優れた強い人間で正義感にあふれている。首席卒業をした芸大で副手、助手と将来を有望された道を歩みながら、学内での不合理さに対抗し職を辞した。所属団体である二科会では旧体質の理事会制を解体し、新制二科会を再建した。

リベラルであるべき芸術団体ほど権力を固守し、古い体制を維持しているものだ。目に見えない大きな力に対抗して、作家としての一番仕事ができる時に、黙っていても済むこともある。これは性格が禍することもある。これに先生のもう一つの使命である「不条理」との戦いであった。芸術家は「不条理」に敏感である。又その不条理を乗り越えたいものが「作品」そのものである。飛鳥、天平時代の仏像、古代ギリシャ彫刻の研究から始まった清新な若い女性の作品には深く大きな精神が宿っている。今回の祝賀には先生の戦いの都織田廣喜先生、松任谷國子先生たちが、七戸では偶然にも先生の実家の隣に住んでいた盛田牧場の奥様、常宿にしていた盛田旅館の母さんたちの喜びを薦げに浮かぶ。先生を推し進めることに、お祝い心にあつた。母の誇りを表現し、皆先生に感謝の言葉を述べたい。今頃父は、ゆっくりと母を待っている。お祝い心にあつた。母の誇りを表現し、皆先生に感謝の言葉を述べたい。今頃父は、ゆっくりと母を待っている。お祝い心にあつた。母の誇りを表現し、皆先生に感謝の言葉を述べたい。今頃父は、ゆっくりと母を待っている。

### 「請」について

立体は置かれている場所の空間と、光によって様々に変化をする。今回の作品「請」は、美術館内で、彫刻が一番美しく見える場所に設置され、彫刻自身が、一番喜んでいられると思われる。台座の高さを決定するのに少々悩んだが、序幕のあと、彫刻と記念撮影をする人たちを見て、ホッとする。彫刻は、触覚の芸術と云われることもある。多くの人々に愛され、触られ、七戸の空気に馴染むと、徐々にブロンズに風合いができて、魅力的な彫刻になると思う。(中略)この作品は「夏の終わり'96」と題され、第81回二科展に発表し、1999年日本橋高島屋で開催された「具象彫刻の現在」展に出品した節目となる作品である。

現在彫刻は、多様化の傾向を示している。しかし紀元前のエジプトから現在まで、脈脈と続く彫刻の幹は変わらない。ギリシャのアルカイック期の彫刻や飛鳥・天平の仏像彫刻に、「夢幻の言葉」を聞きながら制作を続けたいものである。

彫刻家 野毅(会報第76号より)

### ■日本芸術院について

日本芸術院は、芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための荣誉機関です。

また、芸術の発達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重要事項を審議し、これを文部科学大臣又は文化庁長官に意見を述べる事ができるとされています。

(日本芸術院HPより)

### ■日本芸術院会員 推薦理由

野毅氏は、具象彫刻一筋に創作活動を続けてきた。飛鳥、天平時代の仏像や、古代ギリシャ彫刻の造形を研究して、現代女性の伸びやかな姿を清新に表現した優れた彫刻作品を発表している。彫刻と空間の斬新な関係を創出する庭園モニュメントにも、優れた作品を残している。(公社)二科会、(一社)日本美術家連盟等の役員を兼務し、多くの社会活動に貢献している。

(令和2年12月4日 文化庁発表より)

大正浪漫の寵児  
竹久夢二展 閉幕

青森放送株式会社との共催による「大正浪漫の寵児 竹久夢二展」が11月8日(日)、会期を無事に終了しました。大変多くのお客様にお越しいただき、2回、3回と来館される方も多くいらっしゃいました。

今から約100年前に夢二が発信した「かわいい」は現代にも通じる「かわいい」であるということを改めて実感しました。多くの方に大正ロマンの世界を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

総入場者数 11,245 人！  
ご来館ありがとうございました。



9/29 (火)

5000人目せしモ二

5000人目のお客様となったのは青森市からお越しの加藤さん。ご主人とご友人の3人で来館くださいました。新谷理事長から夢二の図録をプレゼントしました。



11/5 (火)

10000人目せしモ二

10000人目のお客様はむつ市からお越しの中村さん。新谷理事長から花束と夢二の作品カレンダーをプレゼントしました。



↑花束とカレンダーを受け取った中村さんは驚いた様子でしたが「夢二の作品を楽しみに来た」と嬉しそうに話してくれました。

お客様の声をご紹介します。

○非常に奥が深くて夢二の思いが伝わったような気がします。とてもお洒落でとてもみごたえがありました。

【50代男性】

○夢二の女性の描き方が上手だった。

【10代女性】

○来て観て良かった。とても美しく細やかで感動しました。着物の柄、色、半衿や帯の色柄の美しさに心を奪われました。もう一度見に来たい。

【50代女性】

○夢二のレトロでかわいいデザインにほっこりしました。色気もありながら可愛げがある夢二式の作品を観て改めて考えられた構図やデザイン性の高さに感動しました。

【30代女性】

○夢二が好きなので、身近な場所で鑑賞する事ができとても嬉しかったです。楽譜の絵をじっくり見たことがなかったのもよかったです。

【20代女性】

○昔どこかで行われた夢二展を見て、もう一度行きたいと思いました。展示物はとても多く、見ごたえがあり、流れている音楽もマッチして素敵でした。

【40代女性】

○来る為にこんなに勇気が必要かと思えます。コロナがなければ春に真っ先に来ただろうと。来たかいはありました。すばらしかったです。

【40代女性】

○夢二の生涯が作品とともにたどれ、とても見ごたえのある展示でした。

【30代女性】

○思った以上によかったです。夢二のファンになりました。

【50代女性】

○BGMも合っていてすてきな時間でした。ありがとうございます。

【50代女性】

○素晴らしいです、見たことのないものが多数あり、見ごたえがありました。また来たいです。

【40代女性】

まだまだ温かいお客様からのメッセージがたくさんあります。多くの方に喜んでいただけて大変嬉しく思っております。ありがとうございました。

美術鑑賞に来てくれました!

今年も城南小学校と七戸小学校の皆さんが美術鑑賞に来てくれました。

12 / 2 (水)・12 / 4 (金)

城南小学校 2・4・6年生

城南小学校の皆さんには城南小学校の「校章」は鷹山宇一先生がデザインしていることを解説しました。「ええっ!」という反応が嬉しかったです。



↑鷹山宇一をはじめ、他にも七戸ゆかりの画家たちを中心に解説。皆さん真剣に解説を聞いてくれました。美術館が初めての2年生の皆さんもじっくり作品鑑賞している姿が嬉しかったです。

12 / 10 (水)

七戸小学校 2・4年生

七戸小学校の皆さんには鷹山宇一先生について解説をした後、自由に鑑賞してもらい、「お気に入り」の作品を見つけ、感想を書いてもらいました。

泡の中に思い出がつまっているみたいですごい。(2年生)

海みたいできれい。チョウたちが海でいっせいに羽ばたいて橋をつくっているみたい。(2年生)

色がエメラルドでチョウが2匹いて色に溶け込んでいてじっくりみないと見えない。エメラルド色がけむりのように広がっている。(4年生)



## 遊蝶記

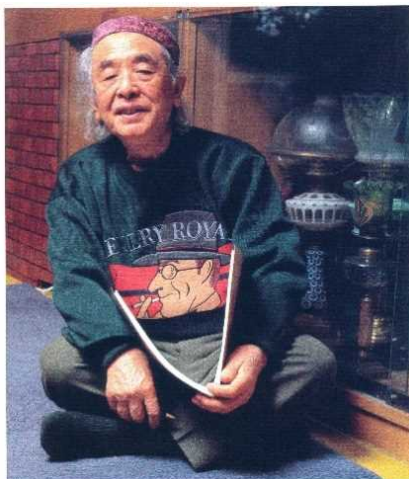
開催中止

12月10日は鷹山宇一先生の誕生日。毎年「遊蝶記」を開催して皆様お祝いをするのですが、今年は新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、開催しませんでした。

「遊蝶記」という名前は、鷹山先生の代表的作品「遊蝶・花」から「遊蝶」を、「記」は「記憶する」の「記」でいつまでも忘れないという願いを込めて命名されています。

毎年お集まりいただいた皆さんと一緒にハッピーバースデーの歌を歌いお祝いするのですが、今年は職員だけで歌を歌いお祝いしました。

来年はまた皆さんと一緒に祝いできますように・・・



常設展開催中!

1月31日(日)まで常設展を開催しております。鷹山宇一の作品をはじめ、鳥谷幡山、上泉華陽、平野四郎などの作品を展示しています。



## 第80回国際写真サロン展

3月7日(日)から3月21日(日)まで「第80回国際写真サロン展」を開催します。1927年に始まった国際写真サロン展(朝日新聞社・全日本写真連盟主催)の第80回展です。世界各国から出品され、写真表現や画像加工を駆使し、独創性と芸術性に富んだ写真作品を展示します。

このような状況の中、無事に展覧会が開催できたのは皆様のお陰です。有り難うございました。2021年が皆様にとりまして、良き1年となるよう、心から祈念しております。

美術館あーとくらぶ

お待ちせ  
しました!!

開講します!!

皆さまお待ちせ致しました。美術館あーとくらぶを開講します。今年は、3月の「デコパーージュをしよう」がコロナウイルスの影響で中止となり、その後もコロナウイルスの拡大が続く思うようにワークショップを行うことが出来ませんでした。

1月からのワークショップは、1回の人数を4、5人にして状況に応じて、回数を増やし開催します。※参加には申込が必要で  
す。※都合により中止になる場合がございます。

1/23  
(土)

### 「マスクアクセサリーを作ろう」

美術館で作っているせんべいストラップがマスクに！取り外し可能です。

- 時間：①10時～、②14時～
- 人数：各回4～5人
- 費用：500円



2/20  
(土)

### 「七宝焼きをしよう」

この時期は七宝焼き。今回どんな形を使うかは、お楽しみ。

- 時間：①10時～、②14時～
- 人数：各回4～5人
- 費用：700円



3/6  
(土)

### 「デコパーージュをしよう」

デコパーージュで自分だけのオリジナルバッグを作りましょう。

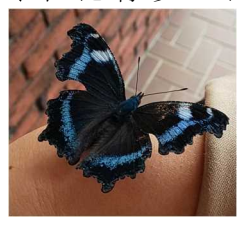
- 時間：①10時～、②14時～
- 人数：各回4～5人
- 費用：500円



12月、ちょうちよくらぶの活動を振り返っていたとき、外では雪がちらついで、蝶達も越冬の時期です。



たしか私が、最後に蝶と遇ったのは夢二展が終わる1日前。11月7日の朝に一人のスタッフに「玄関に蛾がいる」と言われ見に行ったらなんと「ルリタテハ」でした。きっと越冬場所を探していたところ、見つかったしまったのでしよう。少し戯れ自然に帰って行きました。来年もまた遇えるといいな。これが今年のちょうちよくらぶを締めくくる蝶です。

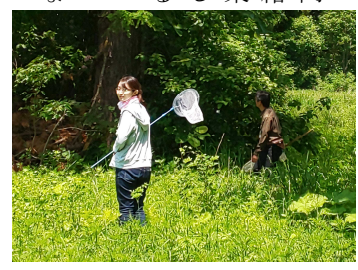


たたらんと「ルリタテハ」でした。きっと越冬場所を探していたところ、見つかったしまったのでしよう。少し戯れ自然に帰って行きました。来年もまた遇えるといいな。これが今年のちょうちよくらぶを締めくくる蝶です。



ちょうちよくらぶは今年で2年目になりました。美術館で生きているものにふれあうなんて、リーダーこと對馬康夫氏との出会いがなければ誰も考えつかない事でした。リーダーが鷹山先生の作品に出てくる蝶を同

定。そこから「宇一が描いた蝶」展を開催しワークショップで蝶を追いかける事に。「絵の中の蝶」と「実在する蝶」が繋がり、そこから生まれたちょうちよくらぶ。振り返ると今年に残念な年でしたが、皆さんと活動が出来ない分、リーダーが主となり活動してくれました。リーダーの行動力には到底叶いませんが、私達スタッフも同行出来る時は一緒に活動しました。楽しかった。調査をして色々な事を知度にわくわくした。それがちょうちよくらぶへの率直な感想です。



7頁にはリーダーの2年間のまとめを掲載しております。「七戸町に生息する蝶と鷹山宇一の描いた蝶」どうぞご覧下さい。

良いお年を



# 美術館日誌



## 9月

(前号追加分)

- 20日(日) 避難訓練
- 29日(火) 竹久夢二展5千人目セレモニー

## 10月

- 4日(日) 浪商連合婦人部来館 (23名)
- 6日(火) RABニュースリーダー取材 (遠藤)
- 8日(木) RABラジオ電話中継 (織川)
- 13日(火) 電気保安年次点検 (佐藤電気)
- 22日(木) 自動ドア点検 (ナブコシステム)

- 22日(木) 東奥日報社打合せ (前田氏)
- 2018日(火) RABラジオ中継 (遠藤)
- 2018日(火) 空調設備打合せ (生涯学習課)
- 8日(木) 作品贈呈打合せ (濱中達男氏・生涯学習課)
- 13日(火) 電気保安年次点検 (佐藤電気)
- 22日(木) 自動ドア点検 (ナブコシステム)
- 2018日(火) 濱中達男氏より鷹山作品贈呈式 (七戸庁舎/理事長・館長・遠藤)
- 2018日(火) RABラジオ中継 (遠藤)
- 2018日(火) 空調設備打合せ (生涯学習課)
- 2018日(火) 東奥日報社打合せ (前田氏)



鷹山作品贈呈式の様子。



夢二展1万人目セレモニー  
むつ市からご来館下さいました。

## 11月

- 5日(木) 竹久夢二展1万人目セレモニー
- 6日(金) 松風荘来館 (20人)

## 12月

- 1日(火) 常設展初日
- 2日(水) 見学 (城南小学校)
- 4日(金) 見学 (城南小学校2年・4年)
- 5日(土) 福島県立美術館細野学芸員来館 (鷹山作品借用表敬訪問)



夢二展グッズ売り場の様子。



メリークリスマス  
いつもより光っています。

- 8日(日) 竹久夢二展最終日
- 10日(火) 展示替え休館
- 10日(火) 作品撤去作業 (青森スタジオ・美術館スタッフ)
- 12日(水) 作品撤去
- 12日(水) グッズ搬出
- 13日(木) 公用車タイヤ交換
- 15日(金) 蝶標本返却 (青森県立郷土館)
- 19日(日) 七彩会 (美術館2F)
- 25日(水) WS放課後こども教室打合せ (生涯学習課・織川)
- 26日(木) 展示作業
- 27日(金) セコム点検
- 27日(金) 公用車タイヤ交換 (昭和電気)
- 27日(金) 館内照明異常 (昭和電気)
- 27日(金) 地下タンク点検
- 27日(金) 空調現地調査 (生涯学習課・石川設計)
- 27日(金) 暖房故障ホイラーポンプ交換 (三光電気)

- 8日(火) アトリ工棟、東奥日報新町ビル貸出の為搬出 (青森スタジオ)
- 10日(木) 見学 (七戸小学校2年・4年)
- 10日(木) 東奥日報取材 (館長)
- 15日(日) 七彩会 (美術館2F)
- 15日(日) 17日(木) 東奥日報伊藤正規展補助 (東奥日報新町ビル/織川)
- 17日(木) 会報原稿〆切
- 17日(木) 会報入稿 (柏文社)
- 17日(木) 図工部会 (七小/織川・遠藤)
- 25日(金) 会報発送
- 26日(土) 会報発送



子ども達の見学の様子



ここが気になるね。



おうちで作ろう!! 【折り紙で蝶をつくろう】  
蝶をお持ち下さいましてありがとうございました。

年末年始休館のお知らせ

12月28日(月) 休館日  
12月29日(火) 休館日  
1月4日(月) 年末年始休館

美術館あーとくろふ  
/ステイホーム編



12月1日から教育普及補助として勤務しております、小林由香と申します。長く和裁に携わる仕事をしてきましたが、この度縁あって鷹山宇一記念美術館で働かせて頂ける事となりました。学生の頃にボランティアやワークショップに参加させて頂いていた美術館で働けることを大変うれしく思います。

不慣れな事も何かと多いかと思いますが、訪れてくださる皆様が気持ちよく美術館で過ごされるよう努力したいと思います。

ご指導ご鞭撻の程  
よろしくお願ひ致します。



### 新しいスタッフの紹介

前教育普及員補助の笹木しずえさんが、一身上の都合により10月31日付で退職しました。お疲れ様でした。



# 「七戸町に生息する蝶と鷹山宇一の描いた蝶（I）」

鷹山宇一記念美術館 研究員 對馬 康夫  
（日本鱗翅学会会員）

## ■はじめに

「七戸町には何種類の蝶が生息しているのでしょうか」という疑問に答えることが、令和元年に「宇一が描いた蝶展」に併せて立ち上げた「ちようちよくらぶ」の今年度の目的の一つに挙げられました。その一方で鷹山宇一（以下「鷹山」という。）が作品に描いた蝶が七戸町に果たして何種類いるのかを明らかにすることは、とても興味深いことと思われたからです。

## 1. 七戸町に生息する蝶

令和元年、令和2年の2年間に渡って、七戸町に生息する蝶の採集、調査を行いました。

### （1）令和元年の採集調査

令和元年は、七戸町に日本で一番白いウスバシロチョウが生息するという事から、その確認のために「ちようちよくらぶ」で二度にわたって採集観察会を行いました。その結果、「白無垢」と言われる純白のウスバシロチョウに準じる白いウスバシロチョウを複数採集することができました。この採集会では他にベニシジミ、ツマキチョウ、ヒメウラナミジヤノメが採集されました。「ちようちよくらぶ」の活動は他

### （2）令和2年の採集調査

に、前年の11月にエゾエノキの樹下の枯葉裏で越冬したゴマダラチョウの幼虫を飼育することでした。幼虫は無事に蛹となり7月の初めに羽化しました。エゾエノキを食草（樹）とする国蝶オオムラサキは採集できませんでしたが、蝶愛好家より終齢幼虫を譲り受け、蛹化、羽化させることができました。



採集地「ちようちよくらぶ」内、三角の村の「ちようちよくらぶ」で行った蝶の採集調査の様子を保存し、家族で採集した蝶の調査

また、9月には美術館周辺で温暖化に伴い北上してきたと推定されるヤマトシジミ、キチョウが多くみられました。ヤマトシジミは11月の降雪前まで連続的に発生を繰り返した。卵、幼虫での越冬を確認しました。

令和2年は、七戸町に生息する蝶を1種でも多く採集するために、雪

解けとともに採集調査を開始しました。採集地はカタクリの群落が見られる家族旅行村を三度にわたって訪れ、ルリシジミ、スギタニルリシジミ、を採集しました。スキー場周辺では、モンシチョウ、スジグロシロチョウ、エゾスジグロシロチョウのシロチョウ3種を採集しました。

5月中旬から6月初めにかけては七戸町全域の33箇所をわたってウスバシロチョウの採集調査を行いました。残念ながら採集できませんでしたが、7月から8月にかけては、上牧場から作田ダムに至る未舗装道路沿いでコムラサキ、アカタテハ、ヒメアカタテハ等のタテハ類が採集されました。この時期青森市は晴れていますが七戸町に入ると「やませ」により霧がかかり、7月26日の八幡岳は視界10mほどで、また、8月12日の上北鉾山では霧雨が降り続いていました。残念ながらオオゴマシジミの姿を見ることができませんでした。

その一方で、渡りをする蝶として知られるアサギマダラを8月19日、20日の二日に渡って八幡岳参道で20以上の個体を確認し、10頭にマーキングして放しました。八幡岳山頂付近には占有行動をするキアゲハやクジャクチョウ、シートアテハが多くみられ、参道にはヒメキマダラヒカゲが姿を現しました。

9月の初め、秋を代表する蝶イチモンジセセリに会いに上牧場を訪れましたが、思いがけず夏眠明けのストジホソヤマキチョウを採集することが出来ました。また、竹の葉に寄生するアブラムシを捕食する肉食種の

蝶ゴイシシジミも採集しました。

### （3）七戸町に生息する蝶

2年間の採集調査で、49種を採集し標本にしました。内訳は、アゲハチョウ科4種、シロチョウ科8種、タテハチョウ科23種、シジミチョウ科7種、セセリチョウ科6種でした。

青森県内に生息する蝶はおおよそ110種が知られていますが、それから類推して七戸町には96種が生息しているものと考えられ、その約半数が採集されたこととなります。シロチョウ科全種、タテハチョウ科はキベリタテハ、ヒオドシチョウ、エルタテハを除くとほぼ全種採集されたこととなります。その一方で採集できなかった蝶は樹上性のミドリシジミ類約20種でシジミチョウ科の大半を占めます。これらの蝶類は越冬卵の採集飼育が標本を得る唯一の簡単な方法で、今後の課題です。

【次号に続きます】



七戸町内で採集した蝶の標本の一部

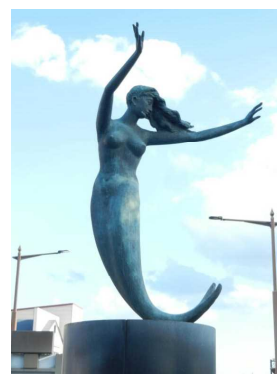
野外彫刻を訪ねて Part III  
八戸駅東口広場編



八戸駅東口風景:中央の樹木は、八戸市民の木「イチイ(オンコ)」平成四年三月三日町同心町から移植したものだそうです。

旅の第一歩は、居住地八戸市からと思いい、八戸駅東口広場に設置されている人魚像を訪ねました。駅周辺で開催されるイベントに行く度に見かけていましたが、写真回が初めてでした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外は勿論、県内の遠出も自粛してしまいましたが自宅と職場の往復だけでは精神衛生上不健康なので、食欲の秋、芸術の秋も深まった十一月初旬から、密閉・密集・密接の三密を避け、マスク着用、手洗い、うがいを随時実行、新しい生活様式を模索しながらですが週末は気分転換を兼ねて近隣の彫刻を鑑賞する旅を楽しんでいます。(文中敬称略)



「海の讃歌」  
(撮影2020年11月初旬)

碑文によると人魚像の正式名称は「海の讃歌」、作者は文化勲章受賞彫刻家「澤田政廣」(一九八四〜一九八八年)。海から拓かれ、四一九八八年)。海から拓かれ、海と共に発展している八戸市の玄関口にふさわしい作品として八戸信用金庫創立七〇周年記念事業の一環としての寄付と、八戸駅前モニュメント建設促進協議会並びに市民の寄付、ご協力によつて一九九三年に完成したそうです。また、澤田政廣は、世界的に知られている是川遺跡に魅せられて幾度か八戸市を訪れ、一九八七年に八戸市美術館で開催した個展が最後の個展になったそうです。

少し寂しげな晩秋の人魚像を鑑賞しながら、冬には、春には、夏にはどんな表情を見せるのだろうかと思ひ始め、せっかく近くに住んでいるのだから、その時々の人魚像を鑑賞したい、特に噴水から噴き上げる水しぶきを浴びながらライトアップされる真夏の人魚像を鑑賞したいと思っています。

まだまだ自粛生活は、継続するように思うので、暫くは近場の彫刻鑑賞を楽しみたいと思います。

・参考資料等  
・熱海市公式ウェブサイトを、その他

八戸市 照井壽一

新規会員入会お誘いのお願いと  
友の会会員登録更新のお願い

令和二年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円  
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引き

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円  
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館

○賛助会員

(個人・法人) 年会費 2万円  
特典 一般会員特典に加えて

- ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
  - ②新規加入の方に画集1冊贈呈
  - ③特別企画展の都度、招待券を贈呈
- ◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お知らせ

会費の納入は随時受け付けておりますが令和二年10月1日以降に新規会費となつた方は、翌々年の3月31日まで

編集後記

会報第一〇一号をお届けします。本年度も友の会会員各位のご協力を頂き会報をお届けすることが出来ましたことに感謝申し上げます。来たるべき令和三年丑(牛)年、皆様にとつて幸多き一年となりますようお願い申し上げます。(照井壽一)